

## 寅彦記念館勤務二十四年

伊東喜代子

全く有り難い運命と言うか縁あって、今年四月まで記念館の木造雨戸の開閉、来館者の応対や庭の手入等の管理をやらせて頂きました。

旧邸は一八八〇（明治十三）年頃に父利正が購入したものであったが昭和二十年七月の戦災によって離れの勉強部屋は免れたものの母屋と茶室は焼失してしまったため、市民の熱い思いで、募金活動や記念切手の発行などの活動を行ってきた結果、一九六七（昭和四十二）年には邸跡と居室が高知市保護史跡に指定され、翌年には明治百年記念事業として「寺田寅彦記念館」建設の構想が出され「建設推進委員会」が発足し、当時鉄筋二階建の記念館の建設が考えられていたようですが、高知市文化財保護審議会では旧邸を復元する方向で意見が集約され、昭和五十二年には茶室を、昭和五十九年には主屋を建築復元されました。図面が残っていなかったため現存する資料や遺族の方々の聞き取り調査、県下に残る古い民家の造作等を検討し、出来る限り元の姿を偲ぶことができるようにして昔の工法をとって建築されたそうです。

全国から寺田先生に憧れ尊敬し慕って訪れる方々には大評判の建物であるようです。近代建物が多い中で木造

平屋の茅葺き屋根の形の外見が現れ、又広い築山のある庭園古木も残って居り、ここが寺田先生の故郷のお家なんだと縁側に腰掛け、時の経つのも忘れ、訪れた方々と話に花を咲かせた日々を今懐かしく思い出しています。

記念館には寺田先生の遺品や資料は極めて少ないですが徒歩十分もかからない場所に県立文学館があり「寺田寅彦記念室」が設けられている事を嬉しく思っています。

物理学者であり科学者であり随筆家であり、私達に自然の素晴らしさや怖さ、物の考え方や見方、年代を問わずこれ程迄に強く引きつける寅彦先生の魅力は一体どこにあったのでしょうか。四季折々の風物を愛する日本人の心の趣くままに、対象を自由に身近に選んで判りやすく分析解説されていて、近付き易く複雑な自然現象を理解しようとする気持が沸いてくるのだらうと思います。

今年には地震や台風災害の多い年でした。先生の随筆の中に、「震災や火災や風水害に関する科学的な知識とこれに対する平生の心得といったようなものを小学校の教科書に入れる」と書かれています。がこれらの多くの書物をことである」と書かれています。がこれらの多くの書物を読み、寺田先生を慕いながら記念館を訪ねてくださる方がますます多くなることを心より願っています。

（記念館前管理人）